



かみやま の 子育て

子育て助成金 3つの完全無償

保育料

医療費

給食費

乳幼児期の5つのサポート

- ① 保健師と管理栄養士が乳幼児一人一人に思い入れを持って、育児をサポート
- ② 満2歳まで、紙おむつ支給（年間3バック※）
- ③ ファーストバースデー祝金（5万円）
- ④ チャイルドシート無償貸し出し※
- ⑤ 親子交流や子育て相談のできる「鮎喰川コモン」で子育てをサポート
※神山町社会福祉協議会による

学齢期の5つのサポート

- ① 小中学校の入学時、入学準備金3万円助成
- ② プリント代や木工材料などを公費負担（一部保護者負担あり）
- ③ 部活動費月額1,000円公費負担
- ④ 学室に兄弟姉妹で通う場合、2人目以降は無償
- ⑤ 複式学級にならないように、町独自採用の教員を採用し配置

問い合わせ：神山町役場 ☎088-676-1111（代表）
徳島県名西郡神山町神領字本野間100
デザイン&イラスト：のぐちようこ 編集：いづもどり
発行：神山町役場・神山つなぐ公社

神山町公式Web
ぜひご覧ください



まち全体で 子どもを 育んでいく神山

神山町には、
「地域全体で、子どもを育てる」
という考えが根付いています。

保護者だけでなく、
地域に愛着のある先生、
おじいちゃん、おばあちゃん、
おっちゃん、おばちゃん、地域のおとなたちみんなが
子ども一人一人を「まちの子ども」として大切に思っています。
おとなたちは子どもたちの学びや体験に自主的に関わり、
自ら楽しんでいます。

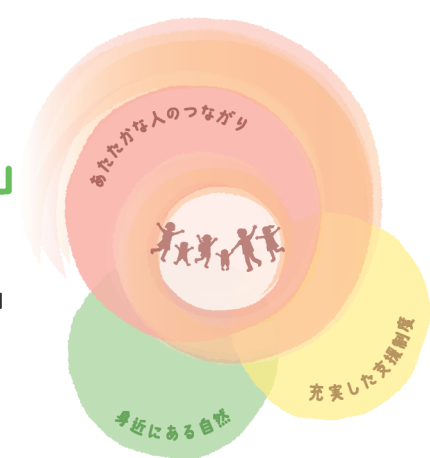
そんな文化を持った神山町だから、当たり前のように
子育て政策が早くから進められてきました。

みんなから見守られ、制度にも支えられ、
里山や鮎喰川のある自然のなかで、子どもたちは育っていきます。

ゆったりと安心して子育てができるまち、
子どもたちが安心して育っていくまち。

2015年に策定された神山町の創生戦略「まちを将来世代につなぐプロジェクト」
でも、「ひとづくり」は大事なテーマ。

神山町は、昔から、
そしてこれからも「まち全体で、子どもを育んでいく」地域です。



神山町子育て世代
包括支援センター



健康福祉課

神山町神領字本野間100
☎088-676-1114
利用時間：平日 8:30～17:15

保健師や栄養士などの専門職員が、
妊娠期から子育て期の悩みや相談に
応じ、必要なサービスの紹介など情
報提供を行い、家族全体の子育てを
応援します。



スタッフの声

神山に戻ってきてからコモンで働くようになって、たくさんのお子さん、
お母さんと出会って、世界が広がりました。ここでは、スタッフ同士も、
スタッフと利用者さんとの間でも、悩みや思いを受け止め、共感し合える
んです。ここで働いていなかったら、そういう仲間と全く出会ってなかった
なあとありがたみを感じます。

子育て支援拠点



鮎喰川コモン

神山町神領字大埜地374-1
☎088-603-8700
利用時間：火を除く平日・土日祝
9:00-18:00

乳幼児の親子をはじめ、いつでもど
なたでも利用できます。乳幼児向け
のおもちゃや絵本と授乳室があり、
利用は無料です。町内産の木材でつ
くられた温かな雰囲気建物です。

神山の 保育・教育の特徴

地域で学ぶ

少人数の良さ

川や森、里山など学びのフィールドや、農林業・IT企業など多様な事業者も
身近な存在です。地域のおとなたちは、保育・学校活動に協力的で、子ども
との関わりを一緒に楽しんでくれています。
「思い立ったら教室の外へ！」そんな保育・授業が、叶う環境です。



Photo: いしはら なつか



神山村長の声

神山町には、子どもが里山や川といった自然にも触れられるし、地域の人も
日常的に温かいコミュニケーションができる環境がある。人間性が育
つのは、とても豊かな環境です。
何もかも整っているよりも、ちょっと山のなかで不便だからこそ、子ども
が工夫や発想をする余地があるんです。



教育長の声

小中学校までの子育て支援については、とても充実していると思います。
町独自の施策で保護者の負担を減らすというのが、神山町の子育て支援の
根本になっています。学力の面においては、一人一人に目が行き届いた指
導ができるので、大規模な学校よりもその子が持っている力をできるだけ
多く引き伸ばしていく指導ができます。

3つの特徴

- ① まちの暮らしの中で学ぶ小学校
- ② 少人数教育
- ③ 体験学習

小学校

教科書の内容を、教室の机の上だけでなく、体験を通じた学びでも身につけて
いきます。体験と知恵・知識・学力がつながって、生きる力が育まれていきます。



Photo: Masataka Namazu

Photo: Masataka Namazu

しもぶん 下分保育所

神山町下分字西寺16-1

しだれ桜で有名な明王寺、大楠のある
宇佐八幡宮や田畑がすぐそばにある、
恵まれた自然環境の下分保育所。地元
の方のお誘いで、田植え、芋掘りなど
近隣で季節ごとの園外活動を楽しめて
います。体育館が隣にあるため、雨の
日でも体を動かすことができます。



保育士の声

神山の子どもたちは、同じ年齢だけでなく、異年齢のつながりも強いなと
感じますね。幼児期から兄弟みたいに、みんな一緒に育っているように思
います。例えばお昼寝の時に、大きい子が小さい子のところへ行行ってトントン、
寝かしつけをすることでも、そういう空気を感じます。

ひろの 広野保育所

神山町阿野字広野154-1

高台の上に立っている広野保育所は、
裏に里山、道路を挟んで鮎喰川の河
原があります。里山や神社などへ、
異年齢で仲良く散歩しています。
小さな子でも歩いて行ける距離に広
野小学校があるので、小学生との交
流もしやすい環境です。

じんりょう 神領小学校

神山町神領字大埜地411-1

児童数は100人程度の学校です。
昭和2年にアメリカ・ウィルキンス
バーグから平和友好の印として贈ら
れた「アリス人形」を大事に保管し
ています。学校の近くに里山や川、
商店街や道の駅、役場などがあり、
多様な校外学習に出かけやすいのが
特徴です。5年生は長年、種籾選び
・田植え・稲刈り・脱穀・調理まで
一連の米づくりを体験しています。



先生の声

神領小に来てはじめて、神山町が教育に手厚いということを知りました。
赴任する前に仲間の先生からは「すごくいっぱい学べる場所やけん、学んで
来いよ」と何人にも言われましたが、来てみて本当にそうだと思いました。

ひろの 広野小学校

神山町阿野字広野22

児童数は30人程度ですが、児童数
人の学年でも複式学級にならないよ
うに教員を配置。生活科や理科、国
語などの授業で出てくる野菜を実際
に栽培し、生の体験でも学習を重ね
ています。育てた野菜を収穫し、調
理・試食することも、広野の日常風
景。職員室では、学年を超えて教員
同士が児童一人一人のエピソードを
共有し、成長を共に喜ぶ毎日です。

下分保育所の子どもたち、高校生、地域の方で、まほろばガーデンという地域の花壇の植え替えを年に2回行っています。



Photo: 上分公民館



毎年5月に、広野保育所、下分保育所の子どもたちが、地元農家さんの畑で無農薬のいちご狩り体験を行っています。



神山では、当たり前のように近所のおじちゃん・おばちゃんたちが、挨拶してくれます。――保護者さんより



未就学児から高校生までを対象とした「地域ぐるみの循環型食農教育」を実施。種から育てて、調理して食べる。その種を次に受け継いでいく。循環型の農体験を、地域の農家さんやつくり手、学校と協力しながら一緒に取り組んでいます。



小学校3年生の子どもたちが、自分たちで育てた大豆を使って木綿豆腐づくりにチャレンジしました。



神領小学校4年生の授業では毎年、地域の伝統文化である阿波人形浄瑠璃を寄井座の方々から教わります。



地域の人は、学校のことを手伝ってくれているのに「自分たちも楽しんでやっているんです」というスタンスの方が多い。これが、長続きしている秘訣やと私は思っています。まちのみんなで子どもを育てるという空気のなかに、学校があります。――先生より

鮎喰川コモンでは、定期的に保健師さんとテーマに沿ってお話しする機会があります。同年代のお子さんを持つ親御さん同士の交流の場にもなっています。



出生届提出時に、絵本やクレヨン、お手拭きなどをプレゼントします。

神山町では、子ども一人1冊子どもノートをお渡ししています。幼少期のお子さんにとって一番大切な生活リズムを整え、お子さんが健康な身体に育つよう、子どもノートをもとに親御さんに説明したり、一緒にお話ししたりしています。――保健師さんより



なんとなく集える場所、ワカモノの店「パンビ」に集まる中学生や高校生、高専生、地域のおとな。おやつを食べたり、本を読んだり、たまに勉強したりできる場所。月1回開催。

町内は、城西高校神山校、神山にまるごと高専の2つがあります。神山校の生徒も、神山まるごと高専の学生も、地域のおとなと出会い、まちの課題解決にチャレンジすることで学びを深めています。普通科などを希望する生徒は町外の高校へ通います。



高専生と神領小学校1年生のコラボ授業。令和5年は、グラフィックデザインの授業と一緒に「やさしいじん」をつくりました。



広野小学校と城西高校神山校によるコラボ授業。令和6年は、レトルトカレーをつくり、販売まで行いました。



中学校の職場体験では、中学生の希望に応じて事業所を決めます。基本一人1事業所（農業・IT・高齢者サロン・飲食店・工務店・美容室・教育施設など）に分かれて行きます。



まち全体で 子どもを 育んでいく 神山



神山町は、川や森、里山、IT・アートが身近で、子ども時代に、五感を育む「実体験の学び」が豊富にあります。

子どもの実体験を支えるのは、地域のおとなとの温かいつながりです。多様な生き方・価値観を持つおとなが、子どもたちを見守り、支えます。

行政も、保育・教育に重きを置き、「3つの完全無償」など全国に先駆けた支援を充実させています。

地域も、行政も。まち全体で、子どもを育てていく。そんな豊かな子育て環境のあるまちが、神山町です。



中学校2年生で取り組むキャリア教育の集大成としてあるのが「立志式」。50年以上続いてきた行事です。2年生は「将来、こうありたい」と願う自分の姿をまちのおとなたちの前で宣言します。

立志式に出席して、感動しました。自分が中学生だった頃は、職業体験もなかったから、昔の立志式とは全然違う。いっぱい考えてから立志式と今は、春からずっといろいろな体験をして、いっぱい考えてから立志式となる。子どもたちは、本当に真剣に取り組んでいるなあと思います。――保護者さんより

近年、小学校で毎年行われている川遊び。広野小学校では、長く生物調査を行っており、今も子どもたちが川に入っている生き物を見つけています。



放課後子ども教室（月1回開催）木工教室の回



神山ルーキーズ少年野球部



Photo: Masataka Namazu

放課後は、学童、スポーツ少年団、習い事、そして鮎喰川コモンで思い思いに遊んだり、宿題をしたり、一緒にスポーツに取り組んだり、本人の好み、家族の暮らしに合わせた楽しみ方があります。



Photo: Masataka Namazu

コーダー道場（プログラミング）

神領 JVC（バレー）



Photo: Masataka Namazu